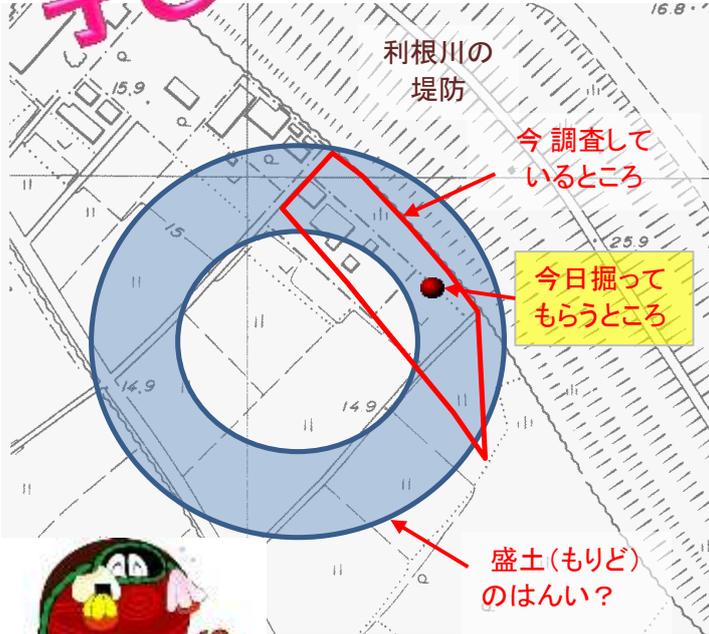


どこを掘るの？



夏休み

子ども発掘体験教室



長竹遺跡(ながたけいせき)は、今から3500年くらい前の縄文時代(じょうもんじだい)に人々が住んだあとです。縄文人が長年にわたり真ん中の土をけずり、外側に盛り上げたため、150mくらいのドーナツ形に土手のような高まり(盛り土(もりど))がめぐるとなりました。その中には、暮らしや祈りの道具がたくさん捨てられています。今日はこの盛り土を掘ってもらいます。土器(どき)や石器(せっき)を手にとりながら、大むかしを思いえがいてみてください(´▽`)

なにが出るの？

ふだんの暮らしに使った土器や石器のほか、お祈りに使った焼き物の人形や動物、耳かざりやペンダントなどのアクセサリーがた〜くさん見つかるはずです☆☆



どぐう(お祈りに使った)



イヌ(お祈りに使った?)



お酒のうつわ



耳かざり

縄文さんのくらしって？

縄文さんは、お米をつくらず、シカやイノシシをかり、魚や貝をとり、ドングリクッキーを作って食べていました。地面を掘って屋根をかけた家(竪穴住居(たてあなじゅうきょ))に住み、お祈りやおまじないをさかんにしていました。想



住居の中のような



石のおの



お祈りに使った石の棒



ムラのイメージ

主催 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 熊谷市船木台4-4-1
共催 埼玉県教育委員会・加須市教育委員会
・国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所